

「まち探訪＆交流会 第3回」開催レポート

いつも暮らしているまちに改めて出会い、歩き訪ねて
“わたしのまちの推し活”の種を探しに行きました



プロジェクトの目的・概要

<令和7年度 地域住民の視点を用いた回遊ルートデザインによるまちの魅力増進・発信プロジェクト>

盛岡市大慈寺地区鉢屋町界隈をモデル地区とした本プロジェクトでは、市内外から選ばれ続けるまちを目指して、「暮らしても訪れても良いまち」の歴史・文化や日常の魅力を、地域に暮らす皆さんの視点を通じて、散策ルートマップや音声コンテンツなどで魅力を発信してきました。今年度は「まち探訪＆交流会」を開催して、地域の皆さん自分が暮らしているまちの魅力を再発見して、伝える、育てるためのアイデアを考え実現を目指す「わたしのまちの“推し活”」に取組んでいます。3回シリーズの最終回開催レポートをお届けします。

「まち探訪＆交流会 第3回」/地域と自己の魅力と価値の再発見、わたしのまちの「推し活」をデザインする

○開催日:2025年11月9日(日)

○探訪先:「盛岡市鉢屋町魅力ガイド＆散策ルートマップ」でまち歩き

○プログラム:
10:00~10:20 オリエンテーション
10:30~14:00 まち探訪
14:00~15:30 交流会ワークショップ

○参加者:15名/地域にお住まいの方、働いている方等

【主催・お問合せ先】特定非営利活動法人盛岡まち並み塾 〒020-0827 岩手県盛岡市鉢屋町3番15号「大慈清水御休み処」内

協力:もりおかワカモノプロジェクト

TEL:019-656-1603 <https://www.machinamijuku.org/>

【発行】特定非営利活動法人盛岡まち並み塾【発行日】2025年12月 ※ 令和7年度盛岡市市民協働推進事業補助金活用事業により作成しました



交流会 [第3回]／わたしのまちの「推し活」をデザインするワークショップ

探訪で出会った人々、体験した時間、感覚を通じて気づいたこと感じたことを共有しました。世代も立場も超え、今回の共通体験を通じて、これから地域の有り方のヒントも沢山出し合い、同じ地域に関わる仲間意識と勇気が芽生えた気がします！地域と自己の魅力や価値を「推し活」と捉えたアクションや取組のアイデアを考えました。



◆まち探訪での発見 ～わたしのまちの推し活の種～

“盛岡らしさ”の一番濃い所！

若い人、移住の人達がでてきている。

和尚さんたちのトークがすごい！

お寺の内部を見て感動！

建物に限らず街の歴史や魅力にも奥行きがある。湧き水、歴史を感じることなど日々の暮らし豊か

初めて建物の中まで見学させてもらい、きれいに保存されていて、外と内側のギャップもあり楽しかったです。

樹木や景色、季節によって魅力が変わる

めちゃめちゃエリアが細分化している！小さい魅力がいっぱいある。歴史がすごい。

年配の方のバイタリティのスゴさ。

一盃森さんの話をもっと聞いて見たいです！

かわてつの庭園を見学できたこと。手入れをすると維持・管理できて景色がすばらしいこと。

歴史が深い建物がとても多く、それについて語れる個性的な方がまちの魅力です！

想った以上にお借りできるスペースが沢山あり、使ってみたいと思いました。

今まで聞く機会がなかった皆さんのが鉢屋町に対する愛を感じました！その気持ちをもっと色々な人に知ってもらうことができないかなと思いました。

◆地域と自己の魅力と価値を「推し活」する ～アクションのヒント～

観光寺ではないとのことです、お寺は魅力があります。寺町なのでおこしとして魅力を発信して、最終的には人口を増やしたいです。

イベント企画などは難しいけど地域で手助けできる事は協力したいです。私のような人は他にもいるはずです。

住人同士で歴史を知り合う機会がなかった。また機会があれば嬉しい！

町内会活動は子ども会とシルバーの方々で参加者が固定化しています。安心感はあるんですが、気軽に参加する住人をもっと増やしたいです。

寺の落ち葉掃きは楽しそうで、参加してみたいです。季節によって地域で行われる余白がまだまだあります。

地域をすることは、地域を楽しむ事。

昔の「間貸しの文化」があります。一人でやつるのは大変だけど、店に貸したり、一家だけなく色々な人が入り来れて、小さな商店が混在して小さな繋がりが芽生えます。

この企画を町内会企画としてもぜひ。型があり他地域でもできるので実現したら盛岡全体が盛り上がるはず！

町内会活動に加えて、別のサークルやまちづくり活動に関わると、仕事などはまた別で、個人として新しい出会いや関わり方ができます。

周辺に住んで地域に関わるいたい人もいるはずです。「地球の歩き方鉢屋町版」のようなものを作って、移住者や関わりたい人を増やしたいです。

企業を含め大きいところに期待することは無理な時代だと思います。やっぱり自分たちで何とかしていかないといけない。細くても熱を持ったものが、ゆくゆくは良い波を長く継続してくれると思います。

例えば、中山間地域はもっと人が少ないです。無関心な人を地域に増やしちゃいけないと思っていますので、少ないがんばる人はいますから、一人一人ちょっとでもいいので何かやってもらいう形にしていく事が大切です。

◆「わたしの推し活」初めの一歩 アクション宣言

推し活アクションのヒント

1. 伝える・広める「情報発信」の推し活： 見つける、撮る、書く、話す／あなたが「これだ！」と思った鉢屋町の魅力を、あなたの視点で発信する活動です。

2. 深める・体験する「学びと探求」の推し活： 訪ねる、調べる、体験する／あなたの興味や関心をもとに、鉢屋町の魅力のルーツや背景をさらに掘り下げる活動です。

3. 繋がる・動く「共創と実践」の推し活： 参加する、協力する、企画する／地域の仲間と連携したり、新たな活動のきっかけを作ったりする活動です。

日々の暮らしや活動で意識したいこと、やりたいことを各自で考えて出し合いました。

あなたも日常で始められそうなこと、やってみたいことはありますか？

- ★ 今日知ったことを子供たちに話す。子ども達よりもまちを知れるようになります。
- ★ まずは家族でお寺を巡りたい！
- ★ 子ども会でも何か「お祭り」ができるように考えたい。
- ★ 地域の清掃活動に参加する。★地域の子育てサロンを町家で開催
- ★ 和田酒店をちゃんとリノベーションする&川鉄一般公開！
- ★ 町内会の活動で今日知ったことを話す。
- ★ 移住を検討されている方に町の良さを伝える。
- ★ まちのファンを増やすために私自身がいろんな人に会う。



<令和7年度 地域住民の視点を用いた回遊ルートデザインによるまちの魅力増進・発信プロジェクト>

★ 2025年11月21日(金)~12月21日(日) 10時~16時(水曜定休)／会場:「大慈清水御休み処」(鉢屋町3-15)
『まちの文化と日常の魅力を伝える、わたしのまちの“推し活”デザイン展 @もりおか市鉢屋町界隈』

- 「まち探訪＆交流会」の活動と実施プロセスの資料を展示紹介～“自分のまちの推し活”の輪を広げたい♪～
- 「わたしのまちの“推し活”の先輩」のインタビュー＆メッセージパネルの展示
- まちの活動写真スライドショー ※毎週日曜日



★ 特設ウェブページで、まちの魅力と活動内容を紹介します。地域の魅力のルーツを市内外に発信♪
<https://www.machinamijuku.org/my-route-design>

特設Webから
これまでの取組もチェックできます

まち探訪 [第3回] / まちの魅力のルーツを探るまち歩きに出かけよう ②「酒蔵 あさ開」/岩井花さん



①「十文字稻荷神社」/大坊さん&一盃森さん



第1回で「十文字稻荷」の祠が地域最古の建築物と話していた一盃森さん。300年前の棟札が存在するそうです。地域の生き字引である大坊さんたっての希望もあり「十文字稻荷」のお当番もされているお二人にご案内いただきました。江戸中期300年前に設立の五穀豊穣、商売繁盛を祈願するお稻荷さん。地域の方が守り、南部藩の「向鶴」が記されています。そして、一盃森さん曰く、消防番付近の十字路界隈を境に、地域文化が異なるそうです。

どのような場所ですか？

お侍さんたちの時代からある地域の鎮守様です。昭和20-30年代頃から地域の集会場もかねた場所です。8月9日の例大祭の活動写真や行燈も飾っています。町内で一軒毎に作っていた子ども達の作品です。

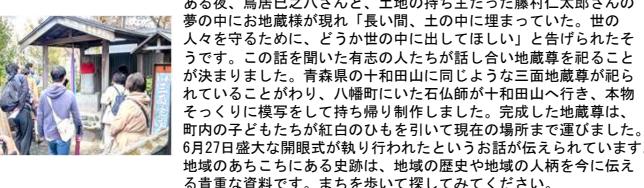
どのような活動をしていましたか？

人が少なくなり平成18年頃にやめたんですが、町内に子ども達が沢山いた時代の例大祭では「10円店」と言っておでんやそばを10円で子どもたちに売ったり、子どもも神輿などをしていました。昭和56年には十文字界隈を通行止めにして「さんさ踊り」もやりました。隣近所の子ども達が集まってきたんですよ。

メッセージはありますか？

300年続くお稻荷さんを自分達の代で無くしたくない。盛大にやっていたお祭りを、若い人達を動員して復活させたい気持ちを持っています。再生せたいです。8月9日の例大祭の日は、子ども達の夏休み期間で忙しい時期かもしれません、調整して復興したいです。皆さんもご協力お願ひします。

★ 三面地蔵



消防番屋から「あさ開」へ向かう道の途中にある「三面地蔵」をご存知でしょうか。1929年6月27日に建てられました。ある夜、鳥居巳之八さんと、土地の持ち主だった藤村仁太郎さんの夢の中にお地蔵様が現れ「長い間、土の中に埋まっていた。世の人々を守るために、どうか世の中に出してほしい」と告げられたそうです。この話を聞いた有志の人たちが話し合い地蔵尊を祀ることが決まりました。青森県の十和田山に同じような三面地蔵尊が祀られていることがわり、八幡町にいた石仏師が十和田山へ行き、本物そっくりに模写をして持ち帰り制作しました。完成した地蔵尊は、町内の子どもたちが紅白のひもを引いて現在の場所まで運びました。6月27日盛大な開眼式が執り行われたというお話を伝えられています。地域のあちこちにある史跡は、地域の歴史や地域の人柄を今に伝える貴重な資料です。まちを歩いて探してみてください。



明治4年創業の酒蔵「あさ開」は2002年入社の岩井花さん。1980年代生まれ盛岡市出身。レストラン勤務から、営業・広報・総務・管理部門などを担当されてきました。入社当初は地域のことも、日本酒についても詳しくなかったそうですが、どんどん魅力を知っていました。日本酒の魅力は「人の心を開く事」とおっしゃいます。毎日、台湾などから団体のお客さまが30-40名程訪れるそうです。工場見学(事前予約制)ができる「昭和旭蔵」、大吟醸ソフトクリームに販賣も試飲も楽しめる「地酒物産館」は、地域と世界を繋ぐ国際交流拠点です。

③「福聚山 大慈寺(ふくじゅざん だいじじ)」/住職の松居さん



21代目和尚の松居さんは1980年代生まれ静岡県出身。先代であるお父様の晩年の手伝いのため10年前に静岡から盛岡に移住されました。松居さんは18代目から住職を務めています。平民宰相原敬の菩提寺でもある「大慈寺」は、1673年創建の黄檗宗のお寺です。明治17年に火事で焼却しましたが、原敬等の檀家さんのご尽力もあり再建されました。黄檗宗は中国から渡ってきた元々(いんげん)和尚が開いた宗派、中国は室内でも土足の習慣のため、本堂は石畳になっています。京都宇治にある本山の萬福寺と同様の造りで、全国でも数えるほどしかない珍しい明朝様式建築のお寺です。境内の樹木の紅葉が鮮やかで美しかったです。

この地域の魅力は？

古い町家や街並みが残り、風情が残っているところですね。周りにお寺が多く、樹々や自然が多くて、落ち着く場所ですね。

30年以上前に子ども会で、お墓で肝試しをしました。寛大な和尚さんで、その節は大変お世話になりました。

現在でも、お寺をお借りすることはできますか？

さすがにお墓で肝試しは難しいかもしれません、地域の方へお寺を開放して、お寺に人が集まるようになる環境は良いことだと思いますので。地域で使うことについては、協力できることはさせていただきたいと思っています。

⑤「奕葉山 久昌寺(えきようざん きゅうしょうじ)」/住職の海野さん



1656年「報恩寺」9代目和尚を最初の住職として迎え開山。25代目和尚さんは松尾町出身1980年代生まれ海野家では5代目の和尚さんです。子どもの頃おじい様が平仮名で書いた「般若心経」のお経本を作ってくれたそうです。建物は「寄棟造」の屋根、本堂は丸柱がない吊り天井造りが特徴的で、山門は22代目和尚さんが川井村で住職をされていたことから、昭和8年に川井村のケヤキで建てたものです。本堂天井の龍の絵、21代目和尚さんが描いた内陣の天井の絵も見せていただきました。境内の色付くイチョウも素敵でした。

地域のおすすめは？

美味しいお店が周辺にも沢山ありますね。私以上に、父の方がバトロールをしておりますが。

大切にしていることは？

お檀家さんのためになれるよう、お寺の運営など色々考えながら、出来る限り精一杯のことをやらせていただいています。

地域とお寺について教えてください。寺子屋や座禅会、お掃除などしているお寺もありますね。例えば、私たちも何か企画してお寺をお借りしたりできますか？

お寺って敷居が高いですか？ 全然大丈夫です。内容にもよりますけれども。企画していただいてご相談ください。例えばイチョウの落ち葉はきは、一緒にお手伝いいただけたりすれば、みなさんと交流するきっかけにもなればと思います。皆さんにはお寺にどんどん来ていただいて、親しみを持っていただけると嬉しいです。

この地域の魅力は？

この地域で仕事をすることの魅了は？

大切にしていることは？

最近では、ものづくりをしてる方が店を開かれたり、若い世代の方が移り住んでいますね。もともと地域の皆さんがとてもパワフルなのが魅力ですね！

創業のきっかけでもありますが美味しい水がある事、清流が整っていることです。それから、地域には、お寺や町家があり、点ではなく面で歩けるまちというのが魅力です。酒は生きもの。酒造りでは季節や気候の変化と丁寧に向き合うことです。地元の観光蔵でありたいと思いますし、いつでも、少しでも、お客様と地域のお役に立てればと思っています。

④ 旧「料亭川鉄」/三田農林株式会社さん



1895年頃建設の2階建で、原敬も利用した川魚料亭。杉・松・ケヤキなどの板を使った趣向を凝らした天井、吹きガラスや建具は当時の物で、盛岡市景観重要建造物です。そして、昔は2階から多々良山が見えたそう。現在の建物所有者である三田農林さんに地域への思いや今後の思いを伺いました。

地域とのご縁は？

創業者と原敬のお父さんが南部藩の同僚でした。こちらで宴會を催したという記録が残っています。まさか建物を取得できるとは夢にも思いませんでした。旧和田酒店も弊社で取得しまして販賣で運営予定です。和田さんが弊社社員の恩師という縁がありました。

大切にしていることは？

無くなったら寂しい、良くない、盛岡に必要かどうかを重要視して使命感というか、目の前の利益やあります保護する事です。

この地域の可能性とは？

歴史は数十年でつくられるものではないです。ここには街道沿いに町家や湧き水など本物があり、文化的な建物やお寺さんなど歴史的なものが密度濃くあります。可能性のかたまりだと思います。

今後の予定は？

旧料亭は指定建造物で制約があるため、活用まで丁寧に時間をかけます。プランがまだないで、イベントなどに合わせて1日開けるなど地域と合せて何かできればと思います。和田酒店も街並みに合うカタチにして、皆さんと良い街を創っていけたらと思います。

⑥ 「藤村家」/吉田さん



鈴屋町生まれの吉田さんは吊るし雛作家でもあります。嫁ぎ先の東京で40年程暮らし、鈴屋町を気に入ったご主人が「老後はぜひここで暮らしたい」というので、お二人で東京から移り住みました。元は造り酒屋で戦後は農機具屋を営んでいたという、生家である築約20年の盛岡町家を見せていただきました。歴史的魅力を活かしながら現代の暮らしに合う形で改修された盛岡町家は、職人の技と工夫、吉田さんのまちへの思いも沢山詰まっている空間でした。

大切にしていることは？

「一生懸命建てた家、育った家は大切にしなさい」と、母から言われて育ちました。歴史あるものは壊してしまったからではない。私も古い家が大好きで、簡単に壊したくなかったのでリフォームしました。まずは水周りを中心にリフォームしたんです。

どのような工夫がありますか？

畳の間は板床にして、応接セット代わりに堀座卓にして温かい風が入るよう細工しました。天井は、柾(まつ)の木を瓦のように重ねていく柾(まつ)ぶき工法です。建物で先に痛むのは天井なので、1軒分の柾(まつ)を保管していたものを使用しました。柾(まつ)を塗って落ち着いた色合いになりました。「一生でこんな仕事が出来る機会はまたとない！」と、職人さんが感動していました。

どのような使い方をしていますか？

お食会を開いたり、NHKのドラマ撮影の控室や、お見合いに使われたりしています。お見合いの成功確率が高いくらいで、場所貸しできるのでアイデアがあれば教えてください。